

# 由比中健児

## ここにあり

41期 望月 伸保さん

(駿河区在住)

18期 森 知宣さん

(葵区在住)

**テ**ントで有名な「株式会社もちひここ」にお邪魔しました。

由比に本社があるためご存知の方は多いと思いますが、創業は、昭和六十二年、産業施設やスポーツ施設などの商業用テナントを製造・販売しています。社員数は、約五十名で、ベテランの高い技術と若い力で成長を続けています。

しかし、これまで順風満帆ではありませんでした。社長が、入社二年目の時に、突然、全ての仕事を打ち切られ、仕事はゼロ、顧客も全て失うという、会社存続の危機に陥りました。周囲が諦めムードの中、社長は、一日五十件というノルマを自分に課し、睡眠時間は四時間半と決め、朝七時から日が暮れるまで、自らの足で飛び込み営業を始めたそうです。名刺の出し方や挨拶の仕方知らないため、飛び込み先の会社では、目の前で名刺を破かれたり、カタログを丸めてゴミ箱に捨てられたり、その状況は三ヶ月も続きませんでした。そんなある日、社長の努力が認められ、ついに一件の受注をもらうことができたそうです。誰にも期待されていない

**六**月四日午後二時指定された日時に、十八期森知宣さんを訪ねた。会社は静岡市駿河区高松にあり、いつもと変わらぬ穏やかな笑顔で私たちを迎えてくれた。由比中同窓会総会に毎年欠かさず出席してくれる律義な人である。二階建てのビルは清潔で事務所内もきれいに整理されていた。事務所の一角の応接コーナーでお話を伺った。

会社は今の時期から空調関係のメンテナンスで忙しくなり七名体制で毎日フル回転していると話してくれた。ダイキン工業認定店としてのサービス依頼、保守契約している会社の空調メンテナンス等大型エアコンから家庭用空調までの仕事が入る。二十四時間三六五日当番制でお盆もゴールデンウィークも仕事をします。

取材は貴重な空いている半日をお借りした。不思議に思っていた会社名について聞いてみた。「(術)ハレー空調サービス」は三十六歳で独立した一九八六年のこと。世の中はハレー彗星大接近で大騒



中、なぜそこまで頑張ることができたのかと何うと、「どんなに厳しい言葉を投げかけられても、学ぶことはあった。むしろ、こうした飛び込み営業で学んだことが必ずプラスになると思っていた。自分に能力がないことはわかっていたので、人の話は、何でも素直に聞けた。教えてもらうことは、ありがたいこと。こうした社長の姿勢にまわりの人が惹きつけられたのではないかと感じました。また、この営業では、「礼を尽くせ」と教えてくれた人、必ず「勝利する執念」が必要だと教えてくれた人など、多くの人と出会い、多くの人に助けられたそうです。こうした方々とは、今でも付き合いがあり、多くの教えを頂いているとのことでした。

また、社長は、本業の傍ら二年間毎週土曜日に東京の法政大学院のゼミに参加。こうした社長の姿勢から社員は「好奇心」「向上心」「勤勉さ」の大切さを感じとるのではないかと思います。

世のため人のために役に立つ、地域や社会から必要とされる会社でありたいと、阪神淡路大震災や熊本地震などの災害時には、即座に被災地に駆け付けテントで支援活動をしたり、障害者雇用にも積極的に取り組んでいます。

こうした被災地への支援活動は、社長が命令したのはなく、社員から自然に手が上がったとの話を聞き、社長の感謝する心、損得よりも善悪の精神が、社員にも

ぎになっていった。単純な名前より話題性のある名前にしようとしてハレーを会社名に採用したとのこと。

現在の仕事のきっかけは清水市商業高を卒業後、銀行に就職したが内勤の仕事が多く、ブルーカラーにあこがれ外での仕事をしたいと考えていた。親に相談したところ反対されたが説得して後輩の勤務する会社(空調関係)に再就職して一から勉強を始めた。

ポールペンから工具を手に入れたが十数年して技術と資格を手にして独立を果たすことができた。

中学校時代の思い出を聞いてみると、授業が終わりに家に帰るとラジオにかじりついて洋楽ポップスを夢中で聴いていたそうで、見せていただいた二冊のノートに当時のヒット曲がずらりと書かれていた。当時ラジオで放送していた



DJ小島正雄氏のリクエスト番組から書き写したものである。多感な時期で悩みもあったが好きなことに夢中になれた時期でもあった。

趣味は月一回程度のゴルフとドライブ中に好きな音楽を聴くこと。オフになるとスポーツバイクで安倍川河川敷を二十〜三十km走ること気分転換する

そうです。また、休日には各地の立ち寄り温泉で英気を養っているそうです。多忙な日々の中でけじめとして毎日ビールと焼酎は欠かさないと言われて同感しました。

空調の故障修理は複雑で大変ですが、迅速に修理してお客様に喜んでもらえるのでこのまま続けていきたいと生涯現役に意欲を見せていました。七十歳で役職を後継者の長男に譲り会社を任せるつもりであると青写真も教えてくれました。ご長男も技術者として頑張っているのが会社をさらに成長させてくれると期待しているそうです。

穏やかで律義な森社長は取材も一所懸命受けてくれてその対応はお客様からの信頼も厚いと推察されるものでした。

帰りは、会社玄関前まできて一礼して私たちを見送ってくれました。

浸透していると感じました。

最後に、社長は、「家族、社員、お客様、今までお世話になった人など、関わった全ての人に対して「感謝」している。私たちは、生かされているのであって、一人では何もできない弱い人間であることを肝に銘じる必要がある」とおっしゃっていました。

数々の苦難を乗り越えてきた社長が発する一つひとつの言葉だからこそ、重みがあり、ぶれない信念と意志の強さを感じました。

中学生に対しては、「礼儀正しく、素直さ、誠実さを持ち合わせた人になること。素直で謙虚であれば、常に成長できる。」とのメッセージを頂きました。

素直さと謙虚さ、「今にみている」という反骨心、そんな両面を合わせもつ社長。今後、ますます会社を成長させていくと強く感じました。

最後になりましたが、お忙しい中、長時間間わたり取材に応じてくださった社長に感謝しております。ありがとうございました。